

富山県高P連会報

第 113 号
2015.9

編集発行
富山県高等学校PTA連合会
発行人 会長 牧田和樹
富山市千歳町1-5-1
富山県教育記念館41号
TEL 076(432)2810
FAX 076(432)1501



教育の大義

富山県高等学校PTA連合会
会長 牧田和樹

ハーバート・スペンサーの適者生存が示すように、社会において需要と供給のバランスは物事の存在価値を左右します。つまり、必要とされていれば消えることはなく、何かしらの役に立っていれば存在は担保されるのです。企業の存在価値を例にとれば、企業（供給）がお客様（需要）に必要とされる商品を提供できなければ代金を手に入れることはできません。付加価値が低ければ競合が現れ、値崩れを起こしいずれは消滅してしまうのです。

さて、翻って教育について同様に考えてみたいと思います。教育の中核の場は学校ですが、企業を学校に置き換えてみるとお客様にあたるのは何なのでしょう。また商品、そして代金は何なのでしょう。学校においては教員ならびにその人件費が確保されなければなりませんし、

運営するための経費も必要です。現在、日本では義務教育をはじめ高等教育にいたるまで、これらの費用は多少なりとも税金により賄われています。つまり、存在を担保しているのが公費ですからこれが代金に相当し、必然的に代金を払うお客様に相当するものは、公費を投入している国家でありひいては納税している国民ということになります。この場合の国家とは国益（国民の生命と財産）を守るための基盤を指し地方自治体や社会と同義であり、国民とはその基盤を構成する集合体のことを指します。授業料等があるので直感的に子供や保護者をお客様に見立ててしまいがちですが、許認可や人事権を含め官庁の管轄下にありそれは勘違いなのです。そうすると、国家が投入する公費に対してバランスする商品はいえ

ば、何を隠そう子供（学生・生徒・児童等）ということになります。つまり、国家は学校に対して公費を投入する見返りとして、国家や国民の役に立つ子供を育成、輩出させることで学校の存在価値が担保されているのです。さらにPTAの立場は企業における協力会社のようなもので、学校の存在価値を高めるパートナーとして重要な役割を担う位置づけになるのです。この意義を見失い、特に子供や保護者がお客様だと勘違いしてしまつと、昨今の教育現場で直面している課題を解決することは不可能です。子供や保護者がお客様になるのは塾や予備校などの教育関連企業であり、決して学校ではないのです。子供たちが未来の基盤となる国家をはじめ地域や社会を創造し、発展させていかなければならないのです。そのため生きる力を子供たちに身につけさせてやるのが教育の大義であり、ここに「国家百年の計は教育にあり」といわれる所以があるのではないのでしょうか。いずれにせよ、学校の果たすべき役割は国家や国民の役に立つ子供を輩出することであり、その育成の任にあたるのが教員で、それを支援するのが保護者でありPTAなのです。2年目の県高P連会長に加え、なぜか全国高P連の理事兼健全育成委員長を理事会推薦で拝命しました。突然で困惑しましたが、両職とも微力ながら懸命に努めたいと考えます。

平成27年度定期総会開催

6月2日富山電気ビルにおいて、平成27年度県高P連の定期総会が約220名の参加を得て開催され、新役員が次のように選出されました。

顧問 毛利一朗

会長 牧田和樹(富山中部)

副会長

佐々木基安(魚津) 尾上一彦(富山)

河合晃充(高岡) 高畑寿太(砺波)

坪池 宏(富山中部)

会計監査

森 脩(富商) 藤井一範(砺工)

P側理事

田原明人(入善) 有倉誠一(桜井)

大江利男(雄山) 渡邊誠一(富工)

蛭谷武志(富東) 野村竹伸(高商)

野村 涉(高南) 小清水勝則(氷見)

上田将正(福野) 長谷川強(石動)

T側理事

國香正稔(魚津) 沢井友義(滑川)

清田尚登(八尾) 木村博明(富山)

黨流全博(富工) 米谷和也(高岡)

菊池政則(工芸) 林 誠一(高南)

藤井修二(砺波) 竹田 誠(福野)

下山正一(雄峰)

幹事

米田由和(魚工) 水井 修(雄山)

松村 智(中農) 關口敏也(富西)

田中雅美(呉羽) 橘 一代(大門)

松井 均(伏木) 萬谷清澄(氷見)

清玄寺吉郎(福光) 島田誠治(小矢部園芸)

杉原 栄(雄峰)

清水好勝・横田淳一(事務局)

共学共育

―他校のPTA活動に学ぶ―

上市高校PTA

「子どもの健やかな成長を 促すPTA活動」

本校のPTAは、会長1名、副会長6名、監査3名の計10名で常任委員会を構成し、さらに委員会として、総務・建設委員会、進路指導委員会、生徒指導委員会、保健厚生委員会、広報委員会に所属するクラス委員24名と地区役員30名の総勢64名で構成しています。

総務・建設委員会では総会の運営を行い、進路指導委員会では進路研修会の企画や参加を呼び掛け、保健厚生委員会ではPTA保健講座の企画と運営(司会)、生徒指導委員会では夏と秋のさわやか運動の参加者募集、広報委員会では機関誌「PTAだより」の企画・構成・編集を行っています。



昨年は、3年に1度の学園祭が開催され、PTAも模擬店を行いました。2日間に参加したPTAは延べ40人にも達し、



チョコバナナやどんどん焼き、うどんを調理・販売しました。前日より仕込みを行い、当日は早朝から準備をしました。その甲斐もあって、販売開始時には長蛇の列ができ、あっという間に完売し、生徒や保護者から大変好評を得ました。この活動は、広報委員会が機関誌「PTAだより」で特集を組み、何度も編集作業を行って充実した内容で発行しました。その後、12月の保護者会の折に全保護者へ配布しました。

生徒生活指導委員会は、生徒の生活・交通指導として「さわやか運動」に参加しています。夏と秋の年2回合計8日間、登校時に校門と上市駅で生徒と一緒にあいさつ運動を行っています。今後も学校、生徒、地域と連携を図り、活力あるPTA活動に取り組んでいきたいと思えます。



上市高校PTA会長

守川 博志

しらとり支援学校PTA

「子どもたちの豊かな 生活を願ったPTA活動」

～地域との連携を通して～

本校PTAの組織は会長1名、副会長3名と、書記2名、会計1名を含む34名の学年代表委員、38名で構成しています。会長を除く役員は、教養部、わくわく部、進路部、広報部、生活部のいずれかに所属して活動を行っています。前年度の執行部員も協力委員として参加しています。

教養部では、会員相互の交流を図るためにPTA交流会を開いており、保護者同士の情報交換にとっても役に立っています。また、昨年は「きょうだい」をテーマに講師を招いて講習会を行いました。

わくわく部では、6月に親子ボウリング、12月にクリスマス会と親子の触れ合いを深める余暇的活動を行っています。昨年のクリスマス会



は、高原兄さんとチアリーディングのパピーズさんが会を盛り上げてくださいました。

進路部では、進路に関する情報収集として、6月に相談事業所から講師を招き、相談支援利用の流れについての話を聞く「ザ・進路」を開催

しました。秋には企業や施設の見学会を予定しています。

広報部では、年3回発行されるPTA会報「洗心」の編集をしています。生活部では、

夏休みの登校日の午後に行う「サマーくらぶ」の企画をします。今年、ダンスの講師を招きます。過去には、サッカーのカタレ富山やバスケットボールの富山グラウジース等のプロ選手とスポーツ教室も行いました。また、保護者が利用したことのある施設の情報を集めたり、実際に施設に向き、話を聞いたりして、「くらしナビマップ」「口コミブック」を作成しています。これは、「個人では、外に出掛けたり、教育・余暇施設を利用したりしにくい」という会員の意見から始まった事業です。



さらに、役員全員で、あいさつ運動をしたり、学習発表会ではお揃いの赤いTシャツを着ての食品販売を行ったりしています。

本校は特別支援学校です。障がいがあっても、子どもたちが豊かに暮らせるように、地域の方に、同じ地域に住む仲間として知ってもらい、誰もが遠慮することなく生きていけるような社会になるように、これからもPTA活動を行っていきたくと思っています。

しらとり支援学校PTA会長

真田美由紀

福岡高校PTA

「生徒の健全な成長を 見守るPTA活動」

本校PTAの組織は、会長1名、副会長3名、監査委員2名からなる6名の役員と、各学年各クラスから2名ずつ選ばれた18名のクラス委員で構成されています。すべてのクラス委員が進路指導委員会、生活指導委員会、保健厚生委員会、広報委員会のいずれかに所属します。そして各専門委員会に振り分ける形で役員が所属し活動しています。PTA総会は5月に、PTA研修会は1、2年生が9月に1回、3年生は5月と8月に2回、いずれも土曜日開催にて多くの保護者が参加しています。



進路指導委員会は、職業人が語る会、PTA大学見学会を企画、運営します。職業人が語る会では、生徒に向けて語って頂ける方を幅広い分野から紹介してもらい、講師としての登録を行う「人材バンク」を作っています。殆どの生徒が進学する本校ではありますが、様々な職業の講師の方から、仕事の内容や働き甲斐などの話を聞き、将来の職業選択について考える機会を与えることで、キャリア教育に繋がればと考えています。

生徒指導委員会は、さわやか運動に参加し、「福岡わんわんパトロール隊員」とともに挨拶を交わしながら地域の人々との交流も深めています。



保健厚生委員会は、各種保健講習会、食育啓発の調理実習を企画、運営します。保健講習会では、AEDの講習会を行ったり、臨床発達心理士の先生をお招きし、感情コントロール法を学んだりしました。食育啓発の調理実習では、管理栄養士の先生から郷土料理を学ぶと題し「いとこ煮」「芋煮ハンバーグ」「ゆべし」などの作り方を教わりました。

広報委員会は、本音でトーク親子座談会を企画、運営します。PTA役員や広報委員の親側と、生徒会役員や各部活動の代表生徒の子供側が日ごろ思っていることを本音で語り合い、その内容を「PTAだより」にも掲載しています。

その他、学校行事にも参加し易いように、授業参観をPTA総会前に設定変更するなど、積極的な保護者参加型のPTAを目指し、今後とも生徒達を見守って行きたいと考えています。

福岡高校PTA会長

笹島 和明

地区指導者研修会報告

新川地区指導者研修会

日時 6月17日(水)
会場 魚津高等学校
分科会と発表校

- 第1分科会 高校教育とPTA 魚津工業高校 石崎勇信副会長
- 第3分科会 生徒指導とPTA 上市高校 守川博志会長
- 第4分科会 家庭教育とPTA 入善高校 田原明人会長

講演 「気がかりな生徒の支援について
～巡回指導員の立場から～」
富山県高等学校巡回指導員 中松 耕二氏

富山地区指導者研修会

日時 6月30日(火)
会場 富山工業高等学校
分科会と発表校

- 第1分科会 高校教育とPTA 富山中部高校 牧田和樹会長
- 第2分科会 進路指導とPTA 富山東高校 相川二部活動後援会長
- 第3分科会 生徒指導とPTA 富山西高校 矢野克彦会長
- 第4分科会 家庭教育とPTA 八尾高校 渡辺清美会長

講演 「サイバー犯罪の現状と対策」
富山県警察本部

サイバー犯罪対策室
警部補 石原 克泰 氏

高岡地区指導者研修会

日時 6月17日(水)
会場 ウィング・ウィング高岡
分科会と発表校

- 第1分科会 高校教育とPTA 福岡高校 笹島和明会長
- 第2分科会 進路指導とPTA 高岡南高校 蓮間好一副会長
- 第3分科会 生徒指導とPTA 小杉高校 西尾 哲会長
- 第4分科会 家庭教育とPTA 水見高校 小清水勝則会長

講演 「ものづくりと日本文化
～高岡市美術館からの発信～」
高岡市美術館 館長 村上 隆 氏

砺波地区指導者研修会

日時 6月17日(水)
会場 砺波市文化会館
分科会と発表校

- 第1分科会 高校教育とPTA 石動高校 長谷川強会長
- 第3分科会 生徒指導とPTA 砺波工業高校 藤井一範会長
- 第4分科会 家庭教育とPTA となみ野高校 穴倉健治会長

講演 「人が輝く元気を学校を目指して」
富山県西部体育センター

館長 伊東 与二 氏

北信越地区高P連 研究大会石川大会

平成27年度北信越地区高P連研究大会が7月9日・10日に石川県立音楽堂で開催され、北信越5県から約1260名、本県から142名が参加しました。

初日は開会式に続いて小松工業高校吹奏楽部の歓迎アトラクションがあり、きびきびとしたマーチング演奏を披露してくれました。



引き続き分科会が行われ、1日目の行事は終了しました。

2日目は「激動する世界情勢と日本のゆくえ」と題して、国際ジャーナリスト・キャスターで明治大学国際日本学部教授である蟹瀬誠一氏による記念講演がありました。蟹瀬氏による記念講演がありました。蟹瀬氏のユーモアあふれる語り口で、国際経済など日本を巡る諸問題をわかりやすく話され、充実した一時でした。特に「教育は3Rから3Xに転換しなければならぬ」という話は印象的でした。



次年度は福井フェニックスプラザを主会場に、7月8日・9日に開催されます。

分科会 発表概要

第1分科会 (学校教育とPTA)

「石動高校PTAの取り組み」
保護者が自ら

講師となる自前講座

石動高校PTA会長

長谷川 強

【研究発表内容】

(ア) 本校の概要

① 特色

② 卒業生の進路動向

(イ) 本校のPTA活動

① PTA役員の委員会組織

② PTA年間の事業計画

(ウ) PTA進路委員会の主な活動

① 進路講演会

② 学校視察

③ 自前講座

(エ) PTA進路講話「自前講座」

① 企画の背景

② 実施経緯

③ 講師の選出

④ 講話を聞いての生徒の感想

⑤ 講話後の講師の感想

⑥ 今後の課題

(オ) おわりに

【今後のPTA活動に向けての研究】
今年度も同様の形態で「進路講演会」「学校視察」「自前講座」を実施予定であり、反省点を見直し改善することで中身をさらに濃いものにしていく。

【成果と反省】

保護者は、子どもの進路を考える時まず経済的なことや将来のことが先に立ち、子どもの目線で考えられるということがなかなか難しい。そういう中で、子どもたちが出かける「オーブンキャンパス」とは別に、「大学見学会」として保護者が参加することとは、子供と進路について共通の話題を持ち話し合う貴重な機会を与えてくれるものと思われる。

実際に多くの保護者から「実際に見るとパンフレットで見るとは違う」、「子供とこれをきつかけに話し合いができた」というご意見をいただいている。

また「自前講座」に保護者が講師として話をしていただくことは、子どもたちの生の声を聞くよい機会だと思ふ。

生徒の希望に合わせた講師の選定は大変であるが、学校や地域の協力・連携のもとに、「自前講座」を発展させるためにも、PTA会員が自ら積極的に生徒の前で語れるように努めていきたい。

第2分科会 (進路指導とPTA)

「本校の進路指導とPTA活動」

富山東高校部活動後援会長

相川 一

本校は、昭和37年に創立され、各学年6学級の普通科単独校です。ほとんどの生徒が国立大学への進学を希望し、「高きを求め 誠に生きん」の校訓のもと、文武両立を掲げ、勉学と部活動に励んでいます。平成9年に設置された自然科学コースでは、主体的な探究活動を通して科学的な思考力と判断力を身につけ、将来、科学の世界で活躍する人材育成に努めています。



開校と同時にPTAが発足し、その後、教育振興会と部活動後援会が設立され、学習と部活動の両面から生徒の教育活動を支援しています。本校のPTA組織は、総会、常任委員会、役員会および専門委員会から構成されています。専門委員会には、「生徒生活指導」・「保健指導」・「東籬編集」・「進路指導」の4つの委員会があり、PTAクラス役員はいずれかの委員会に所属して、年2回の会合に参加しています。

本校PTAが支援する進路指導の活動を二つ紹介します。一つは、「PTA大学訪問」です。保護者の関心が高く、生徒の進学者数も多い富山大学と金沢大学を、毎年交互に見学しています。子供たちが進路選択を

第3分科会 (生徒指導とPTA)

「生徒指導とPTA」

本校の取り組みから

高岡工芸高校PTA会長

奥村 吉成



本校PTAの生活指導委員会では、昨年より、「遅刻回数削減」、「交通事故の防止」、「服装を正す」、「あいさつの励行」の四つの目標を立て取り組んでいます。具体的には、次のように取り組んでいます。

遅刻防止のために、早寝早起き心がけ、家庭でできる生活習慣の指導を行う。ゲームやスマホ等の使用時間を決め(11-7運動)、宿題・課題等が終わったら早めに就寝させ、翌日は、早めに起床させる。

交通事故防止のため、家でも自転車点検を定期的に行う。また、雨天の日は、早めに起床し、公共交通機関を利用させる。

服装では、家を出る時に一度「鏡」を見させ、正しい服装になっているかどうか、規範意識を身につけさせる。

あいさつでは、さわやか運動に参加し、生徒と一緒にあいさつをする。また、家庭では、保護者の方から仕掛け、あいさつの日常化に努める。

このうち遅刻回数と交通事故件数について、具体的数値目標を設定し学校と協力して、生徒が規則正しく

安全な生活を送れるように取り組みました。

遅刻については、年間延べ200回以下という目標を達成しました。

今後も遅刻をしないように、学校との連携の強化を図り、正しい生活習慣を身につけさせたい。また、より効果的な解決策を考え、粘り強く指導していきたい。

交通事故に関しては、目標値を上回り残念な結果となりました。いずれも軽微な事故でしたが、重大な事故につながる可能性も十分に考えられるので、外部講師による交通安全教室などを積極的に開催し、家庭でも注意喚起するとともに、効果的な交通安全指導の在り方を考えていきたい。

生徒指導は、学校が主であり、あの意味では「学校におまかせ」となってしまうところがありません。しかし、学校だけの問題ではなく、私たち保護者の理解と協力がなければうまくいかないものです。家庭でできることもたくさんあるかと思えます。

「子どもは、家庭で育て、学校で鍛え、地域で磨く」

原点は家庭です。まずは、家庭でしっかりと育てないと、学校で鍛えることも、地域で磨くこともできません。「家庭・学校・地域」の三位一体となった連携が必要だと思えます。

第4分科会 (家庭教育とPTA)

「家庭教育とPTA」

「家庭の役割・イレブン・セブン」

運動への取り組みを中心として

入善高校PTA会長

田原 明人



本校は、大正11年富山県立入善農学校として設立され、現在は普通科9・農業科3学級からなる生徒数436人の学校です。平成8年、普通科に「自然科学コース」が設置され、課題研究やフィールドワーク、毎年7月には地元のホテルを借り切り研究発表会をおこなっています。

農業科は作物、野菜、草花などを栽培する知識や技術を学び、地域農業に貢献できる人材の育成をめざしています。平成25年からは「入善式デュアルシステム長期委託実習」として、地域の受入優良農家で実習を行っています。また、野菜苗販売や小学校との交流などを通して、地域に根ざした活動をしており、最近では、「耕作放棄地の再生事業」に参加しています。

本校のPTAは「生徒生活」、「広報」、「保健」、「教養」、「進路指導」の5つの委員会から成り、それぞれ「挨拶運動と祭礼巡視」、「年2回の『PTAだより』の発行」、「学校保健委員会での調査と発表」、「保護者向けの教養講座」、「進路講演会・進

する際、親として最近の進路事情を知り、適切なアドバイスができるように情報を得ています。昨年度の富山大学の訪問では、杉谷キャンパスの医学部と薬学部、五福キャンパスの経済学部と理学部を見学しています。参加した保護者からは、「いろいろな学部を見学させていただき勉強になりました」、「学食や学生の雰囲気もわかり、とてもよかったです」といった感想を得ています。今年度は金沢大学の角間キャンパスを見学して来ました。二つめは、「進路に関する保護者同士の懇談会」です。受験生を持つ保護者が知りたい情報を、直接卒業生の保護者から教えてもらえる懇談会を昨年度から企画、実施しています。昨年度の懇談会は、3学年全体保護者会(9月開催)の終了後に開催し、48名(全体の約2割)の参加がありました。文系1クラスと理系2クラスに分かれて、司会・進行はPTA役員が担当しました。保護者からは、「役立った」、「有意義だった」という感想が多く聞かれ、問題点や反省点も考慮して今年度も継続して実施する計画です。私たち保護者は、子供たちの最も身近に見守っていく立場として、子供たちが進路選択する際に適切なアドバイスができるように、積極的に行動すべきです。こうした立場から、本校PTAでは学校と緊密な連携を図りながら、今後も進路指導への可能な限りの支援をしていきたいと思っています。

路セミナー・大学見学会の開催」等を行っていきます。

今年度は全体でイレブン・セブン運動(夜11時から朝7時まで携帯端末を使わない)に取り組みました。

入学式に1年生保護者に対し、また5月16日に全保護者に対し運動の趣旨説明および協力を依頼し、5月22日に全保護者に対しアンケートを実施しました。358人から回答をいただき、回収率は82%でした。

その結果、本校生は、ほとんどの時間携帯端末を手にしているが、睡眠時間を削っているわけではないことがわかりました。さらにこの運動への取り組み後、改善が見られた家庭が1、2年生で約3割ありました。この運動に関してはほとんどの保護者が賛成で反対は4名のみでしたが、反対理由は「家庭内ルールの方が厳しいので11時はあまい」といったものでした。しかし、「言っても聞かない」「もう疲れ果てた」などの深刻な訴えもありました。

印象に残る回答がありましたのでまとめとして引用します。
「:..:だけ親が子どもに関心を持って接しているかが重要だと思えます。これは(携帯ではなく)親の問題ではないでしょうか?」

子どもがどのように生きていくか。やはり親をはじめとした家庭の役割が大きいのではないのでしょうか。今こそ我々親の考え方、生き方がいっそう問われているのではないのでしょうか。

第65回全国高P連大会 岩手大会

「未来圏からの風をつかめ」

「新時代を担う君たちと共に」をテーマに、第65回全国高P連大会岩手大会が、8月20日・21日に岩手産業文化センターをメイン会場に、盛岡アイスアリーナをサブ会場に開催されました。全国から約1万人、本県からは42の単P・117名が参加しました。

歓迎アトラクションとして、メイン会場は盛岡市立高等学校吹奏楽部の演奏、サブ会場は岩水高等学校郷土芸能同好会の演技があり、高校生の若さあふれる演奏と伝統を継承する郷土愛にあふれる演技に感動しました。

村上雅人氏(芝浦工業大学学長)による「夢高くして足地にありThe sky is the limit」と題する基調講演7会場に分かれての分科会、大友啓史氏(映画監督)による「アドリブを生きる力」と題する記念講演などがあり、得るものが多く充実した研究大会でした。

20日には本県の教育懇談会を盛岡グランドホテルで開催し、県高P連に集う人々の親睦を深めることができました。

次年度の大会は平成28年8月25日・26日に幕張メッセ(千葉市)で開催されます。

参加者の声



全国から約1万人のPTA参加者が集い、「未来圏からの風をつかめ」

「新時代を担う君たちとともに」をテーマに岩手産業文化センターをメイン会場に盛大に開催されました。

開会式では佐野全国高P連会長、3年連続して出席された下村文部科学大臣の挨拶などがありました。下村大臣から、現在小中学校で行われている学力テストを平成31年から高校でも実施する計画や派遣留学生への全額給付案が話されました。

基調講演では、盛岡市出身の芝浦工業大学学長の村上雅人氏が「夢高くして足地にありThe sky is the limit」あなたの可能性は宇宙に続く空のように無限大、と題して高校生の時にアメリカに1年間留学した経験を活かされ、「多くの国の友人が多様な価値観を認識し共有することができた」と話されました。

学生に接するときの信条「よく遊び、よく学べ、専門馬鹿になるな!」や、国語の先生との出会いで古文を理解し好きになれたこと、専門である超伝導の興味深い話、2025年開業予定のリニア新幹線の話などを聞くことができました。

村上先生の話を聞き、基礎的学力の蓄積と己の志が大事なのだ痛感しました。

日中は暑くても朝夕が涼しい東北盛岡の街で充実した2日間を過ごすことができ、関係者の方々に感謝しています。

(富山商業高校PTA会長 森 脩)



平成27年度表彰

本年度の全国高P連大会、北信越高P連研究大会で、次の皆さまが表彰されました。

▼優良PTA文部科学大臣表彰
団体 八尾高校PTA

▼全国高P連大会会長表彰
団体 新川みどり野高校PTA
南砺平高校PTA

個人 織田伸一(前高P連理事)
萩山峰人(前高P連理事)

▼北信越地区高P連表彰
石崎清孝(前高P連副会長)
越田喜規(前高P連副会長)
水上幸俊(前高P連副会長)
澤田正嗣(前高P連会計監査)

編集後記

委員会組織改革後初の会報の発行です。今回は紙面を二頁増やし、北信越地区高P連研究大会関連記事の充実を図りました。そのため、従前より多くの方に寄稿をお願いしましたが、快く引き受けていただき、無事発行できました。寄稿いただきました皆さまには心より感謝申し上げます。

さて、新幹線が開業し、東京や長野、金沢が物理的にも心理的にも近くなり、高校生を巡る環境も変化してきているように感じます。高校生の健全育成にどう関わるか、皆さまと考えていきたいと思つこの頃です。(事務局長 清水)